

# 2016年度 社会福祉法人亀岡福社会 事業活動報告

事業所名 亀岡市障害者相談支援センターお結び・相談支援センター 巴（ともえ）

## 1. 2016年度 事業所方針

1. 当事者やその家族の思いに寄り添うためにも障害の理解を深める。
2. 生活のしづらさを丁寧にとらえて、地域で安心して暮らしつつげられるように日常生活全体を支援していく窓口になる。
3. 啓発活動に力を入れて、地域作りの種を蒔いていく。
4. 障害者虐待の未然防止や早期発見、迅速な対応、その後の適切な支援を行うための知識を深める。

## 2. 利用者・職員状況について

職員：6名（お結び・巴兼務）

### 1. 相談支援実績（お結び）

相談人数/件数	相談実人数		相談件数		内容別件数					
	127 名		899 件		899 件					
障害種別	身体	知的	精神	発達	知・発	身・知	身・精	知・精	その他	不明
		14	45	30	8	24	3	1		1

### 1. 相談支援実績（巴）

相談人数/件数	相談実人数		相談件数		内容別件数				
	250 名		1577 件		1577 件				
障害種別	児童	身体	知的	精神	身・知	身・精	知・精	身・知・精	
		27	21	131	45	21	1	3	1

## 3. 実践内容について

今年度より、週1回の職員会議に加え、月1回1日を通しての職員会議を設定し、職員同士の意思疎通と情報共有の場、学習の場として話し合いや学びを重ねてきました。

毎回テーマを決め、学習会を実施するとともにグループワークを通して計画相談を作成するなど、相談員としての質を高める学習を年間通して行ってきました。

相談ケースは一人で担当することが多く、困難なケースについては、どうしたらいいかわからなくなり、抱え込んでしまうことも少なくありません。できるだけ、職員会議で行き詰まっていることも含めて報告をしあい、相談をするよう意識を高めてきました。また、会議以外の時間でも分からないこと、悩んでいることについては、相談しあえる関係でいられるよう、発信や声かけに努めてきました。

利用者さんが65才を迎え、介護保険制度に移行することで、利用料がかかることや今まで受けていたサービスが受けられないようになり、不安に思われるケースもあります。利用者さんの現状や制度の矛盾などを地域の課題として明らかにして、改善できるようにしていきたいと思えます。

## 4. 次年度へ課題について

- ・個別ケースについては、会議以外の場でも気軽に相談できるように（聞く・話す）していきます。分かりやすく共有できるように、資料などの準備を行ないます。
- ・各関係機関（当事者家族含む）とのケース会議に向けての事前の相談や会議の報告は丁寧に行ないます。
- ・来年度も月1回の1日職員会議を開催し、ケース検討・職員学習に力を入れる。（職員学習は、担当を決めるなどをして、主体的に関われるようにしていく）
- ・引き続き、必要に応じて、ケース担当は複数体制にします。
- ・モニタリングの期日を守り、相談記録をしっかりと行ないます。
- ・虐待に対する理解と意識を高めるための学習会を開催します。
- ・関係行政機関、相談支援事業所及び障害福祉サービス事業所等の各関係者とともに虐待防止のための具体的な動きを作っていきます。